



お盆

先祖が一年に二度、この世界にやってくる。一度は正月、もう一度がお盆。この先祖を迎えるために、親戚一同が実家へ集まる。これが帰省だ。帰省するのは生きた人だけではなく、先祖も帰省しているのだ。お盆の場合は、この先祖を楽しく迎えるために踊

りを踊る。……以上のようなことが分らないと、正月とお盆は単なる「休み」となり、帰ってきた先祖はそっちのけで、旅行に行ったりするので、まあなんと愉快な信仰なのだろうとつくづく思う。

人はみんな、いつかこの世の役割分担を終える。そして、年に二回、懐かしい人々と面会にやってくるのだ。私も死んだら、年に二回、懐かしい、そして縁ある人々の所へ帰ってこようと本気で思っている。私の場合、正月もお盆もどちらも二泊三日がいいところだ。それ以上滞在しても、生きてる人に迷惑だろうし、また向こうへ戻ってやること溜まってしまいそうだからである。

面会制限のあるコロナ禍でも、心豊かなお盆をお過ごしください。

(樺澤住職)

コロナ禍での

裸押合大祭(3月5日)

数百年連綿と受け継がれてきた伝統行事である「大祭」を「中止」という一言で途絶えさせることは出来ない。多聞青年団、大祭委員会で熟慮を重ね、昨年一昨年より行事を増やし、令和4年の大祭を事故無く終えた。



「コロナ対策」(大祭関係者全員が抗原検査、境内に入る参拝者はマスク、検温、消毒)を万全にし、餅撒き

午前一回・午後一回、大名行列、稚児行列を実施する。露天商は出店を中止したが、地元料飲店組合が対

応し、講中の方や参拝客に大変喜ばれた。

「押し合い」と「弓張撒与」は中止としたが、「ねこ」を敷き、多聞青年団最高幹部水行・豊年踊り、撒与者・講中水行、ささらすりを行う。

多聞青年団長挨拶

大祭が終わった3月6日、定例総会で第71代団長に選任されました浦佐田町の阿部容与です。宜しくお願ひします。

コロナウイルスの感染拡大で、3年間堂内での押合が実施できませんでした。来年こそは通常の大祭ができるかと念じています。

